

# 火山防災エキスパート派遣に係る参考資料

## 【群馬県】

### 【目次】

1	支援概要.....	1
2	派遣先において直面している課題や問題意識.....	1
3	浅間山の概要.....	2
	（1）火山の概要.....	2
	（2）火山活動の状況.....	3
4	火山防災対策に関する取組状況.....	9
	（1）浅間山火山防災協議会.....	9
	（2）浅間山避難計画.....	10
	（3）浅間山広域避難計画.....	11
	（4）噴火警戒レベルの運用.....	12
	（5）火山ハザードマップ.....	14
	（6）火山防災訓練.....	15
	（7）群馬県による啓発の取組.....	16
	①小学生を対象とした防災教育.....	16
	②浅間山火山防災講演会.....	16
	③「信州 火山防災の日」記念イベント.....	17

令和7年10月

## 1 支援概要

- 支援内容 避難促進施設等に関する勉強会
- 日時 令和7年10月27日(月) 14:00～16:30
- 場所 群馬県庁
- 派遣先事務局 浅間山火山防災協議会事務局(群馬県総務部危機管理課内)
- 派遣エキスパート等 三浦 秀明(火山防災エキスパート、元宮崎県危機管理局危機管理課専門主事)  
南沢 修(火山災害対応経験者、山梨大学地域防災・マネジメント研究センター特任教授)
- 支援対象者 浅間山火山防災協議会構成員

## 2 派遣先において直面している課題や問題意識

活火山法第6条第1項第5号において、市町村防災会議は、警戒地域内の集客施設及び要配慮者利用施設等について、火山現象の発生時における当該施設を利用している者の円滑かつ迅速な避難を確保する必要があると認められるものについて当該施設の名称及び所在地を市町村地域防災計画に定めることとされている。

浅間山においては、現在避難促進施設として定められた施設がなく、その選定や指定に関する知識等が不足しており、避難促進施設に関する意識の醸成が必要と考えている。これを踏まえ、避難促進施設等に関する勉強会を実施するものである。

### 3 浅間山の概要

#### (1) 火山の概要

浅間山は、群馬県と長野県（以下「両県」という。）の2県にまたがって位置し、頂上の噴火口は両県の境にあり、標高は2,568mである。

複雑な形成史をもつ火山で、黒斑(くろふ)火山、仏岩火山が形成された後、約1万年前からは前掛火山が活動を開始した。山頂部の釜山は現在も活動中であり、これまでに10回余りの大規模な噴火と中小規模噴火を繰り返してきた。

有史以降の活動はすべて山頂噴火であり、釜山の山頂火口(長径東西500m、短径南北440m)内の地形、特に火口底の深さは、火山の活動の盛衰に応じて著しく変化する。

山頂火口は常時噴気しており、釜山西山腹の地獄谷にも噴気孔がある。

爆発型(ブルカノ式)噴火が特徴で、噴火に際しては火砕流(熱雲)が発生しやすく、1108年、1783年には溶岩流も発生した。

出典：浅間山火山防災協議会「浅間山避難計画(LV1-3想定)」  
(<https://www.pref.gunma.jp/page/8124.html>)

浅間山は、群馬県と長野県の2県にまたがって位置する火山である。頂上の釜山は両県の県境にあり、最高点の標高は2,568mである。浅間山は複雑な形成史をもち黒斑山、仏岩山、前掛山そして現在活動中の釜山など複数の火山活動を繰り返して形成された。浅間山は有史以降10回余りの大規模な噴火と中小規模の噴火を繰り返してきた。とりわけ天仁噴火(天仁元年、西暦1108年)と天明噴火(天明三年、西暦1783年)の噴火活動が顕著であった。

有史以降の噴火活動は前掛山とその内側に位置する中央火口丘である釜山の山頂火口(長径東西500m、短径南北440m)で発生している。釜山の山頂火口の火口底の深さは火山活動の盛衰によって著しく変化する。山頂火口では常時噴気がみられ、釜山西山腹の地獄谷にも噴気孔が存在する。噴火様式は爆発型(ブルカノ式)噴火が特徴であるほか、火砕流も発生しやすく、天仁・天明噴火では空高く噴煙を上げるプリニー式噴火の他、溶岩流も発生した。

出典：浅間山火山防災協議会「浅間山広域避難計画」  
(<https://www.pref.gunma.jp/page/8124.html>)

## (2) 火山活動の状況

浅間山における、有史以降の火山活動を以下に示す。

<火山活動の履歴 ※▲は噴火年を示す>

年代	現象	活動経過・被害状況等
▲685(天武天皇 14)年	噴火?	火砕物降下。
▲1108(天仁元年)	大規模:マグマ噴火	天仁噴火または浅間 B 軽石噴火:8月29日、8月末あるいは9月初旬、9月25日~10月11日。火砕物降下 → 火砕流 → 溶岩流 → 火砕物降下・火砕流。噴火場所は前掛山。 マグマ噴出量は0.62 DRE km <sup>3</sup> 。(VEI5)
▲1128(大治3年)	大規模:マグマ噴火	火砕物降下。噴火場所は前掛山。 マグマ噴出量は0.28 DRE km <sup>3</sup> 。(VEI4)
▲1281(弘安4年)	噴火?	6月26日。
▲1527(大永7年)	噴火?	5月。
▲1528(享禄元年)	噴火?	
▲1532(享禄4年)	噴火、(泥流)	1月4日。火砕物降下、泥流。噴火場所は山頂付近。 噴石は火口の周囲8kmにわたり落下。降灰は120kmに及びその後の雨とともに積雪が融解・流下し、山麓の道路、人家に被害。泥流によると考えられる直径25m以上の「七尋石(ななひろいし)」が残っている。なお、この後同年中(天文元年)さらに噴火。(VEI2)
▲1534(天文3年)	噴火	
▲1582(天正10年)	噴火	2月16日、7月3日。火砕物降下。
▲1590(天正18年)	噴火	
▲1591(天正19年)	噴火	11月29日。火砕物降下。
▲1595(文禄4年)	マグマ噴火?	噴火? 6月1日。火砕物降下。
▲1596(慶長元年)	中規模:マグマ噴火	5月1-5日、8月1、19日、9月。火砕物降下。噴火場所は山頂付近。5月5日、噴石のため死者多数、8月19日噴火。マグマ噴出量は0.004 DRE km <sup>3</sup> 。(VEI3)
▲1597(慶長2年)	噴火	4月17日。火砕物降下。
▲1600(慶長4年)	噴火	1月14~25日。火砕物降下。
▲1605(慶長10年)	噴火	12月~06年2月。
▲1609(慶長14年)	噴火	4月5日。
▲1644(正保元年)	噴火	2月20日。
▲1645(正保2年)	噴火	5月21日。
▲1647(正保4年)	噴火	2月18日、3月25日。
▲1648(慶安元年)	噴火	3月20日、8月30日。1m以上の積雪を融解、追分驛を流失、夏にも噴火。
▲1649(慶安2年)	噴火	8月18、19日。
▲1650(慶安3年)	マグマ噴火?	6月4日。火砕物降下。
▲1651(慶安4年)	噴火	4月12日。
▲1652(承応元年)	噴火	4月12日。噴石のため山麓焼ける。
▲1655(明暦元年)	噴火	11月25日。
▲1656(明暦2年)	噴火	12月10日。
▲1657(明暦3年)	噴火	11月25日。
▲1658(万治元年)	噴火	7月24日。
▲1659(万治2年)	鳴動	7月24日。降砂。
▲1660(万治3年)	噴火	4月4日。
▲1661(寛文元年)	噴火	4月4、14、27日、10月21日。
▲1669(寛文9年)	噴火	
▲1695(元禄8年)	噴火	6月23日。火砕物降下。
▲1703~04(元禄16~宝永元年)	噴火	噴火日~4月。火砕物降下。
▲1706(宝永3年)	噴火	11月20日。

年代	現象	活動経過・被害状況等
▲1708～09(宝永 5～6)年	噴火	12月29日、1709(宝永6)年1月8日。火砕物降下。江戸に降砂。
▲1710(宝永7)年	噴火	4月13日。
▲1711(正徳元)年	噴火	3月25日、4月13日。火砕物降下。降灰。
▲1713(正徳3)年	噴火	6月29日。噴火？火砕物降下。
▲1717(享保2)年	噴火	9月23日。
▲1718(享保3)年	マグマ噴火？	9月26日。鳴動。噴火場所は山頂付近。
▲1719(享保4)年	噴火	6月10-11日。火砕物降下。
▲1720(享保5)年	噴火	6月6日。
▲1721(享保6)年	小規模：噴火	6月22日。火砕物降下。噴石のため登山者15名死亡、重傷1名。(VEI1)
▲1722～23(享保7～8)年	噴火	11月18-21日、12月4、23日、1723(享保8)年2月5日。火砕物降下。
▲1723(享保8)年	噴火	8月20日。
▲1728(享保13)年	噴火	11月10日。
▲1729(享保14)年	噴火	11月または12月。火砕物降下。降灰。
▲1732(享保17)年	噴火	7月30日。
▲1733(享保18)年	噴火	7月30日。噴石。
▲1752(宝暦2)年	噴火	9月または10月。
▲1754(宝暦4)年	噴火	火砕物降下。夏から秋に数回、降灰のため農作物被害。
▲1776(安永5)年	噴火	9月5日。火砕物降下。降灰。
▲1777(安永6)年	噴火	数度にわたり噴火。
▲1783(天明3)年	大規模：マグマ噴火、(山体崩壊、二次爆発、泥流)	天明噴火：5月8～10日、6月25、26日、7月17、21～31日、8月1～5、15日。火砕物降下 → 火砕物降下、火砕流 → 溶岩流、火砕物降下、火砕流、泥流 → 火砕流、岩屑なだれ → 泥流。噴火場所は釜山火口。 5月9日から8月5日頃まで約90日間活動。特に7月28日には江戸で戸障子振動し、降灰あり。8月2日には火山雷・噴石のため前掛山は火の海となった。8月3日には牙(ぎっぱ)山にも噴石落下、山麓まで火事、銚子まで降灰。8月4日は北麓に吾妻(あがつま)火砕流を流出。関東中部で降灰のため昼も暗夜のようになる。8月5日午前大爆発とともに鎌原(かんばら)火砕流・岩屑なだれが発生、北麓に流下、下流では泥流に変化して吾妻川を塞ぎ、次いで決壊、多量の水が利根川に出て流域の村落を流失した。鎌原火砕流発生直後に鬼押出(おにおしだし)溶岩が北側斜面を流下。死者1151名、流失家屋1061棟、焼失家屋51棟、倒壊家屋130余棟、噴出物総量 $4.5 \times 10^8 \text{m}^3$ 。 マグマ噴出量は $0.51 \text{DRE km}^3$ 。(VEI4)
▲1803(享和3)年	噴火	7月4日、11月7、20日。火砕物降下。7月4日降灰。11月7日噴石のため分去(わかさり)茶屋倒壊。11月20日江戸に降灰。
▲1815(文化12)年	噴火	2月28日。火砕物降下。
1864(文久3)年頃より	鳴動	詳細不明。
1866～1867(慶応2～3)年	噴煙・鳴動	詳細不明。
▲1867(慶応3)年	噴火	8月。降灰。
▲1869(明治2)年	噴火	春から10月23日頃にかけて。春から秋にたびたび噴火。
▲1875(明治8)年	噴火	6月14日。火砕物降下。降灰。
▲1879(明治12)年	噴火	9月27、28日。
▲1889(明治22)年	マグマ噴火？	12月24日。火砕物降下。噴火場所は釜山火口。 噴石のため山火事。鳴動。
1890(明治23)年	鳴動	1月5日21:00頃より鳴動：翌6日03:00頃まで10余回の鳴動。
▲1894(明治27)年	マグマ噴火	火砕物降下。噴火場所は釜山火口。 4～6月に数回噴火、降灰、爆発音。
▲1899(明治32)年	噴火	火砕物降下。噴火場所は釜山火口。 3、7、8月に噴火、8月7日には爆発音・降灰が関東北部まで達した。
	マグマ噴火	火砕物降下。噴火場所は釜山火口。

年代	現象	活動経過・被害状況等
▲1900～01(明治 33～34)年		1～4 月に噴火、爆発音大、空振、噴石、降灰広範囲。7、8、11、12 月にも噴火、降灰、鳴動。1901(明治 34)年 3～8 月、10 月に噴火、降灰。
▲1902(明治 35)年	噴火	8 月 5、20 日。火砕物降下。噴火場所は釜山火口。 鳴動、降灰。
▲1904(明治 37)年	噴火	8 月 4 日。火砕物降下。噴火場所は釜山火口。 降灰。
1905(明治 38)年	鳴動	10 月 21～28 日。
1906(明治 39)年	鳴動	4 月 6、20 日。
▲1907(明治 40)年	噴火	火砕物降下。噴火場所は釜山火口。 鳴動、降灰。1 月 18 日、3 月 28 日、8 月 24 日。
▲1908～14(明治 41～大正 3)年	小規模：マグマ噴火	鳴動または降灰。噴火場所は釜山火口。 1911(明治 44)年 1～4 月活発に活動、爆発音大、降灰広範囲で、しばしば関東東北・中部に及ぶ。特に爆発音は 1 月 18 日には東方 100～150 km 以上、4 月 3、4 日には富山県まで。5 月 8 日噴石多量、死者 1 名、負傷者 2 名、空振による家屋の被害、爆発音 240km に及ぶ。7～9 月ときどき噴火、8 月 15 日死者多数。10 月 22 日、12 月 3 日爆発音 100km 以上に及ぶ。1912(明治 45～大正元)年噴火：1、2、4、7 月ときどき噴火、爆発音、降灰。10 月連続して噴火し、火口底浅くなる。12 月噴火続き、火口底さらに浅くなり火口縁と同じくらいになる。1913(大正 2)年 2、4～11 月活発に噴火、爆発音大、降石、降灰広範囲。5 月 29 日登山者 1 名死亡、負傷 1 名。6 月 17 日には降灰は東方太平洋まで、爆発音の外聴域出現。1914(大正 3)年 1～6、11～12 月活発に噴火、爆発音大(東京でも聞こえる)、降灰広範囲。特に 3 月 3 日空振強く山麓で戸障子はずれる。 マグマ噴出量は 0.00013 DRE km <sup>3</sup> 。(VEI1)
▲1915(大正 4)年	噴火	8 月 27 日。噴火場所は釜山火口。 活動衰えたが、5、6、8 月に山頂に火映。
▲1916(大正 5)年	噴火	9 月 8 日、10 月 2 日。噴火場所は釜山火口。
▲1917(大正 6)年	噴火	5 月 17 日。噴火場所は釜山火口。
1918(大正 7)年	鳴動	5、6 月。
▲1919(大正 8)年	噴火	3 月 14 日、5 月 3 日。噴火場所は釜山火口。 3 月 14 日噴火、噴石、降灰砂。5、7、8 月に弱い噴火。
▲1920～22(大正 9～11)年	マグマ噴火	火砕物降下。噴火場所は釜山火口。 連続的に噴石活動、噴煙多量。1920(大正 9)年 12 月 14 日噴石のため峰の茶屋焼失、軽石多量噴出。12 月 22 日山火事 200ha 以上。1921(大正 10)年 1～6 月噴火活発、1 月 18 日、6 月 4 日に空振のため山麓で戸障子破損。その他鳴動、降灰。1922(大正 11)年 1～4 月噴火、噴石、降灰。特に 1 月 14 日爆発音が東京でも聞こえ、山麓で空振のため戸障子破損。
▲1924(大正 13)年	噴火	9 月 13 日、10 月 29 日。火砕物降下。噴火場所は釜山火口。降灰。
▲1927～28(昭和 2～3)年	マグマ噴火	火砕物降下。噴火場所は釜山火口。 1927(昭和 2)年 9～12 月。4 月頃から噴煙の増加が始まり、9 月から鳴動、10 月には爆発音大、降灰もあった。1928(昭和 3)年 2 月 23 日爆発音大、山麓で空振のため戸障子破損、噴石広範囲で分去茶屋焼失、屋根の破損多数。3 月は数回噴火し、鳴動、降灰など。7 月も数回噴火し、鳴動、降灰。
▲1929～32(昭和 4～7)年	小規模：マグマ噴火	火砕物降下。噴火場所は釜山火口。 1929(昭和 4)年 9 月 5 日山頂有感地震：9 月 18 日直径 30～60cm の噴石が 3km も飛び、山林焼失。空振のため山麓で戸障子破損。爆発音の外聴域出現。4、10、11 月にも 1 回ずつ噴火。1930(昭和 5)年 4 月は数回鳴動、少量の降灰。6 月 11 日噴火 4～5 回、強い空振、爆発音の外聴域出現、山火事。7 月数回鳴動、降灰。8 月活発に噴火し降灰、降石、20 日火口付近で死者 6 名。9 月の爆発も強く噴石、降灰広範囲。10 月 17 日噴火。 1931(昭和 6)年 3、6～7 月に 1～数回の噴火、降灰。8 月は活発に活動し噴石、降灰など。特に 20 日に遭難 3 名、爆発音の外聴域出現。9 月前半に数回噴火、降灰、噴石。10、12 月数回噴火し、12 月 8 日には空振のため山麓でガラス破損、爆発音の外聴域出現、関東南部に迄降灰。 1932(昭和 7)年 2～7 月毎月十数～数十回噴火。爆発音大、降灰広範囲の噴火もあった。9 月にも数回噴火、鳴動、降灰。

年代	現象	活動経過・被害状況等
		マグマ噴出量は0.00012 DRE km <sup>3</sup> 。(VEI1)
▲1934～37(昭和9～12)年	小規模:マグマ噴火	火砕物降下。噴火場所は釜山火口。 1934(昭和9)年11月噴火:1935(昭和10)年1、2月に1回ずつ噴火。4月に数回噴火し特に20日は爆発音、空振が大きく山麓で戸障子はずれガラス破損。5月も活発でしばしば山火事発生。6～11月も毎月数回噴火。 1936(昭和11)年2～4、7～11月に毎月数～数十回の噴火。特に7月22日には爆発音の外聴域出現。7月29日及び10月17日にそれぞれ登山者1名死亡。1937(昭和12)年2～7月に毎月数回噴火。3月18日爆発音、空振大きく山麓で戸障子被害、降灰は関東中部に及ぶ。 マグマ噴出量は0.00024 DRE km <sup>3</sup> 。(VEI1.4)
▲1938～42(昭和13～17)年	小規模:マグマ噴火	火砕物降下。噴火場所は釜山火口。 3～12月に毎月数～数十回噴火。5月21日に爆発音の外聴域出現、山麓でガラス破損。6月7日降灰多量。噴出物総量 $2 \times 10^5 \text{m}^3$ 。7月16日登山者若干名死亡、農作物被害。9月20日に山麓でガラス破損。10月4日、12月11日、28日に爆発音大きく可聴域大。9月26日13:43噴煙高度8200m。1939(昭和14)年全月数回噴火。2月2、15日には爆発音大きく可聴域大。1940(昭和15)年2、4～6、9～11月に毎月数回、12月から噴火回数増加。1941(昭和16)年毎月十数～数十回噴火。4月1日爆発音の可聴域大、山麓でガラス破損多数。7月13日死者1名、負傷者2名。 1942年全月数～数十回噴火。5月には可聴域大、山火事など。 マグマ噴出量は0.0002 DRE km <sup>3</sup> 。(VEI1.3)
▲1944～45(昭和19～20)年	噴火	火砕物降下。噴火場所は釜山火口。 1944(昭和19)年6～12月に毎月数回～数十回噴火。1945(昭和20)年1～8、10～11月に数～数十回噴火。
▲1946(昭和21)年	噴火	10月29、30日。火砕物降下。噴火場所は釜山火口。10月に1回噴火。
▲1947(昭和22)年	小規模:マグマ噴火	7月6日、8月14日。火砕物降下。噴火場所は釜山火口。 6、7、8月に1回ずつ噴火。8月14日12:17の噴火では噴石、降灰、山火事、噴煙高度12000m、登山者9名死亡。 マグマ噴出量は0.00004 DRE km <sup>3</sup> 。(VEI1)
▲1949(昭和24)年	マグマ噴火	火砕物降下。噴火場所は釜山火口。 3、4、7～10月噴火。8月15日噴火時に転倒して登山者4名負傷。特に9月活発、9月3、21日は爆発音の外聴域出現。
▲1950～51(昭和25～26)年	小規模:マグマ噴火	火砕物降下。噴火場所は釜山火口。 1950(昭和25)年9月23日04:37の噴火で登山者1名死亡、6名負傷、山麓でガラス破損、爆発音の外聴域出現。火口縁北側に巨大岩塊噴出(千トン岩)。10、12月にも1回ずつの噴火、噴石、降灰。1951(昭和26)年2～6月に1～数回の噴火。 マグマ噴出量は0.00004 DRE km <sup>3</sup> 。(VEI1)
▲1952(昭和27)年	噴火	6月7、13、14日。火砕物降下。噴火場所は釜山火口。 6月に3回噴火、降灰。
▲1953～55(昭和28～30)年	噴火	火砕物降下。噴火場所は釜山火口。 1953(昭和28)年12月に6回噴火、降灰:1954(昭和29)年1～7月毎月数十回、8月以後10月を除き毎月数回噴火。6月24日関東南部に達する降灰。9月6日かなりの範囲に噴石、降灰。 1955(昭和30)年1～6月毎月1～数十回噴火。6月11日爆発音の外聴域出現。
▲1958～59(昭和33～34)年	小規模:マグマ噴火	火砕物降下、火砕流。噴火場所は釜山火口。 1958(昭和33)年:10～12月活発に噴火。11月10日22:50爆発、爆発音の可聴域大、多量の噴石、火砕流、降灰、噴出物総量 $3.6 \times 10^5 \text{m}^3$ 、空振による山麓のガラス・戸障子の被害広範囲、爆発地震の震度2(軽井沢町追分)。 1959(昭和34)年:毎月1～数十回噴火し、ときどき降灰。4月14日は噴石のため山腹に多数の山火事、関東南部まで降灰。 マグマ噴出量は0.00022 DRE km <sup>3</sup> 。(VEI1)
▲1961(昭和36)年	小規模:マグマ噴火	火砕物降下、火砕流。噴火場所は釜山火口。 8～11月に毎月数～数十回噴火。8月18日14:41に23ヶ月ぶりに噴火、かなりの範囲に噴石、降灰、行方不明1名、耕地、牧草に被害、噴出物総量 $7 \times 10^4 \text{m}^3$ 。

年代	現象	活動経過・被害状況等
		マグマ噴出量は 0.00004 DRE km <sup>3</sup> 。(VEI1)
▲1965(昭和 40)年	水蒸気噴火	5月23日。火砕物降下。噴火場所は釜山火口。 5月に弱い噴火、黒煙のみ確認。その後、約4年間地震活動の活発な状態続く。
▲1973(昭和 48)年	中規模：マグマ噴火、(泥流)	火砕物降下、火砕流、泥流。噴火場所は釜山火口。 2月1日未明に火映。地震多発。同日19:20に11年3ヶ月ぶり(1965年5月の弱い噴火を除く)に大きな噴火をして5月24日まで活動。2月1日空振により山麓のガラス戸破損。小規模な火砕流が3回発生(2月1日、6日、3月10日)。 マグマ噴出量は 0.00044 DRE km <sup>3</sup> 。(VEI2)
1981(昭和 56)年	地震	3月7～11日、8月10～12日。地震群発。
▲1982～83(昭和 57～58)年	小規模：水蒸気噴火、(泥流)	火砕物降下、火砕流、泥流。噴火場所は釜山火口。 1月17日地震群発。4月26日02:25噴火：小規模の火砕流、房総半島まで降灰。農作物被害。10月2日ごく小規模噴火：群馬県長野原町でごく少量の降灰。火砕流と泥流は1982年4月26日に発生。1983(昭和 58)年4月8日01:59爆発：爆発音、火口上に電光と火柱、山腹(南斜面)で山火事発生、長野県・関東地方北部・福島県の太平洋岸まで降灰。(VEI0.9)
▲1990(平成 2)年	ごく小規模：水蒸気噴火	火砕物降下。噴火場所は釜山火口。 地震・微動多発(その中で7月20日に噴火)。7月20日早朝噴火。火口から東～東北東山麓の狭い範囲で微量の降灰。(VEI0)
1991(平成 3)年	地震	地震回数やや多い。1～9月。
1994(平成 6)年	地震	地震回数やや多い。11月24日M2.3の地震発生(震度1:軽井沢町追分)。7～12月。
1995(平成 7)年	地震・噴煙	地震回数やや多い。噴煙活動やや活発。4～7月。
1996(平成 8)年	地震・噴煙	地震回数やや多い。噴煙活動やや活発。5～12月。
1997(平成 9)年	地震・噴煙	地震回数やや多い。噴煙活動やや活発。1～5月。
1999(平成 11)年	地震	8月上旬～中旬地震多発。11～12月上旬地震回数やや多い。
2000(平成 12)年	地震・噴煙	4月17日地震多発。9月18日～23日地震多発。10月下旬～12月地震回数やや多い。11月下旬～12月噴煙活動やや活発。
2001(平成 13)年	地震・噴煙	地震回数やや多い。噴煙活動やや活発。1～4月。
2002(平成 14)年	地震・噴煙・火山ガス・火映	6月22日地震多発。6～9月地震回数やや多い。噴煙活動活発。火口底温度上昇。火山ガスにより山麓の樹木変色。9月微弱火映。
▲2003(平成 15)年	ごく小規模：水蒸気噴火	火砕物降下。噴火場所は釜山火口。 2月6日は火口周辺のみ、3月30日は山頂部から山腹にかけて少量の降灰。4回の噴火のいずれかにより、火口付近(火口縁から約300m)に最大4cmの火山礫(れき)が飛散。噴煙活動活発。(VEI0)
▲2004(平成 16)年	小規模：マグマ噴火	火砕物降下。噴火場所は釜山火口。 7月下旬から噴煙活動活発。微弱火映。火口底温度上昇。火山ガスにより山腹の樹木変色。8月31日夜より地震多発。9月1日20:02に21年ぶりに中噴火(爆発)して活動を再開。9月1日の爆発は、大きい爆発音と空振(205パスカル:軽井沢町追分)を伴い、噴石を飛散、山頂の北東6kmまで最大3cmの火山礫が降下、北東方向の群馬県・福島県(最も遠いところは相馬市)の一部で降灰。9月14～18日小噴火がしばしば発生、特に16日未明～17日夕方はほぼ連続的に発生。南東の軽井沢町には多量の降灰があり、群馬県・埼玉県・東京都・神奈川県・千葉県(最も遠いところは勝浦市)の一部でも降灰。この頃火口底に新しい溶岩が出現。9月23日19:44中噴火(爆発)。中程度の爆発音と空振が発生。爆発地震により御代田町御代田で震度1。山頂の北北東4kmに最大3cmの火山礫が降下、北北東方向の群馬県・新潟県・山形県(最も遠いところは東根市)の一部で降灰。9月29日12:17中噴火(爆発)。弱い爆発音と空振が発生。爆発地震により軽井沢町追分・御代田町御代田で震度1を観測。山頂の北4kmに最大4cmの火山礫が降下、北から北北東方向の群馬県嬭恋村・長野原町・草津町等の一部で降灰。11月14日20:59中噴火(爆発)。大きい爆発音と中程度の空振を伴い、山頂の東4kmに直径4～5cm火山礫(最大は7.5cm)が降下、長野県、群馬県、栃木県の一部で降灰。 マグマ噴出量は 0.00006 DRE km <sup>3</sup> 。(VEI1)
▲2008(平成 20)年	ごく小規模：マグマ噴火	火砕物降下。噴火場所は釜山火口。 8月10日02:37頃ごく小規模な噴火。噴煙の高さ400m、流向:南東。

年代	現象	活動経過・被害状況等
		8月11日 20:05 頃ごく小規模な噴火。噴煙の高さ 200m、流向:南。 8月14日 07:59 頃ごく小規模な噴火。噴煙の高さ 400m、流向:南東。
▲2009(平成 21)年	小規模:マグマ水蒸気噴火?	火砕物降下。噴火場所は釜山火口。 2月2日 01:51 頃～08:00 頃小噴火。噴煙の高さ 2,000m、流向:南東。火口から約 1km に弾道を描いて飛散する大きな噴石が飛散。降灰は関東地方南部まで確認。 2月9日 06:34 頃～10:15 頃ごく小規模な噴火。噴煙の高さ 400m、流向:東。軽井沢町の一部の地域で微量の降灰を確認。 2月9日 11:30 分頃～12日 08:00 頃小噴火。 2月9日 17:10 頃には噴煙の高さ 1,000m、流向:北東。 2月10日 04:50 頃には噴煙の高さ 1,400m、流向:南東。 2月11日 02:50 頃には噴煙の高さ 1,000m、流向:東。軽井沢町の一部の地域で微量の降灰を確認。 2月12日 16:51 頃ごく小規模な噴火。噴煙の高さ 300m、流向:南東。 2月12日 18:07 頃ごく小規模な噴火。噴煙の高さ 400m、流向:南東。 2月12日 21:02 頃～22:12 頃ごく小規模な噴火。噴煙の高さ 500m、流向:南東。 2月16日 13:00 頃～14:00 頃ごく小規模な噴火。噴煙の高さ 400m、流向:東。 2月16日 16:35 頃ごく小規模な噴火。噴煙の高さは雲のため不明。東京大学浅間火山観測所で微量の降灰を確認。 2月17日 18:33 頃ごく小規模な噴火。噴煙の高さ 400m、流向:東。 3月15日 23:48 頃ごく小規模な噴火。噴煙の高さ 200m、流向:東。 4月14日 07:32 頃ごく小規模な噴火。噴煙の高さ 400m、流向:北東。 4月30日 20:02 頃ごく小規模な噴火。噴煙の高さ 500m、流向:北東。 5月3日 03:20 頃ごく小規模な噴火。噴煙の高さ 400m、流向:北東。 5月27日 01:41 頃ごく小規模な噴火。噴煙の高さ 600m、流向:直上。 マグマ噴出量は 0.00001 DRE km <sup>3</sup> 。(VEI1)
2011(平成 23)年	地震	3月～4月。東北地方太平洋沖地震(2011年3月11日)以降、3月12日から山頂火口の南及び南東で地震活動が活発化。4月19日 M1.6(震度 1:軽井沢町追分)。
▲2015(平成 27)年	ごく小規模:水蒸気噴火	火砕物降下。噴火場所は釜山火口。 6月16日 08:50 頃ごく小規模な噴火。浅間山の北から北東にかけて微量(1m <sup>2</sup> あたり 0～2g)の降灰。噴煙は視界不良のため不明。 6月19日 17:00 頃ごく小規模な噴火。長野県設置の黒斑山カメラ画像に火山灰が付着。噴煙は視界不良のため不明。山麓での降灰は確認されず。 これらと前後し、2015年～2018年。地震回数多い。噴煙活動活発。二酸化硫黄放出量多い。微弱な火映。
▲2019(令和元)年	ごく小規模:水蒸気噴火	火砕物降下。噴火場所は釜山火口。 8月7日 22:08 山頂火口で小噴火。噴火は約 20 分間継続。噴煙の高さは、火口縁上 1800m 以上上がり、北へ流れた。弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から 200m 程度まで飛散。群馬県嬲恋村及び長野原町でわずかな降灰。 8月25日 19:28 山頂火口で小噴火。噴煙の高さは、火口縁上概ね 600m まで上がり、東へ流れた。浅間山の東側 4km 付近の長野県軽井沢町でごくわずかな降灰。
2020(令和 2)年	地殻変動・地震・火山ガス	6月20日頃から浅間山西側での膨張を示すと考えられる傾斜変動。 6月25～26日地震多発、地震回数はその後も増減を繰り返す。二酸化硫黄放出量は概ね多い状態。
2021(令和 3)年	地殻変動・地震・火山ガス	3月15日頃から浅間山西側での膨張を示すと考えられる傾斜変動。 3月23日地震多発。二酸化硫黄放出量も増加したが、7月以降、火山活動は静穏に経過。

出典：気象庁「浅間山 有史以降の火山活動」  
([https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/306\\_Asamayama/306\\_history.html](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/306_Asamayama/306_history.html))

## 4 火山防災対策に関する取組状況

### (1) 浅間山火山防災協議会

浅間山火山防災協議会は（以下「協議会」という。）、活動火山対策特別措置法に基づき、浅間山において想定される火山現象の状況に応じた警戒避難体制の整備を行うとともに、地域住民等の防災意識の向上に資することを目的に、浅間山周辺市町村や、群馬県、長野県が共同で設置し、ほかに防災関係機関、火山専門家等で構成されている。

協議会は、浅間山に係る噴火シナリオ、火山ハザードマップ、噴火警戒レベル、具体的な避難計画等の一連の警戒避難体制の整備に関する事項等について協議を行う。

#### 協議会の設置経緯

平成 17 年 11 月 浅間山火山防災対策連絡会議として設立

平成 25 年 8 月 浅間山火山防災協議会に名称を変更

平成 28 年 3 月 活動火山対策特別措置法の改正に伴い、同法第 4 条第 1 項の規定による法定協議会へ改組

< 浅間山火山防災対策協議会構成機関 (R7.10 時点) >

区分	機関名
都道府県 (第 1 号)	長野県、群馬県
市町村 (第 1 号)	小諸市、佐久市、北佐久郡軽井沢町、北佐久郡御代田町、吾妻郡長野原町、吾妻郡嬭恋村
地方气象台等 (第 2 号)	東京管区气象台、前橋地方气象台、長野地方气象台
地方整備局 (第 3 号)	関東地方整備局
陸上自衛隊 (第 4 号)	陸上自衛隊第 1 2 旅団、陸上自衛隊第 1 3 普通科連隊
警察 (第 5 号)	長野県警察本部、群馬県警察本部
消防 (第 6 号)	佐久広域連合消防本部、吾妻広域消防本部、高崎市等広域消防局
火山専門家 (第 7 号)	東京大学名誉教授 荒牧 重雄、東京大学名誉教授 武尾 実、(一社)全国治水砂防協会理事長 大野 宏之、日本大学上席研究員 高橋 正樹
その他 (第 8 号)	群馬県高崎市、群馬県安中市、内閣府政策統括官(防災担当)、気象庁浅間山火山防災連絡事務所、国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所、国土交通省関東地方整備局長野国道事務所、国土交通省関東地方整備局高崎河川国道事務所、林野庁関東森林管理局吾妻森林管理署、林野庁中部森林管理局東信森林管理署、環境省信越自然環境事務所上信越高原国立公園管理事務所、国土地理院関東地方測量部、長野県警察本部高速道路交通警察隊、長野県小諸警察署、長野県佐久警察署、長野県軽井沢警察署、群馬県警察本部警備部、群馬県警察本部高速道路交通警察隊、群馬県長野原警察署、群馬県高崎北警察署、群馬県安中警察署、(株)西武・プリンスホテルズワールドワイド鬼押出し園、しなの鉄道(株)、(株)白糸ハイランドウェイ、東日本高速道路(株)関東支社長野管理事務所、(株)ステップアウト、東日本旅客鉄道(株)長野支社、東日本旅客鉄道(株)高崎支社、浅間山ジオパーク推進協議会、佐久広域連合事務局

出典：群馬県「浅間山火山防災協議会について」(<https://www.pref.gunma.jp/page/8124.html>)

## (2) 浅間山避難計画

協議会では、浅間山において噴火災害が発生し、又は発生が想定される状況が噴火警戒レベルに応じて高まった場合に、協議会の構成機関が連携協力し、火口周辺に存在する住民及び登山者・観光客等の安全を確保し、迅速かつ円滑な避難対応がとれる体制を講ずることを目的に、「浅間山避難計画」を令和2年3月にとりまとめた。

なお、本計画では、噴火警戒レベル2又は3が発表された場合、又は突発的に噴火が発生した場合を対象としている。

目次	
1 計画の基本的事項	- 1 -
1.1 計画の目的・位置づけ	- 1 -
(1) 計画の目的	- 1 -
(2) 計画の位置づけ	- 1 -
1.2 浅間山の概要・監視観測体制	- 2 -
(1) 浅間山の概要	- 2 -
(2) 監視・観測体制	- 3 -
1.3 想定火山現象・噴火シナリオ・噴火警戒レベル	- 4 -
(1) 想定される火山現象	- 4 -
(2) 噴火シナリオ	- 6 -
(3) ハザードマップ	- 8 -
(4) 噴火警戒レベル	- 10 -
1.4 避難計画の基本的事項	- 11 -
(1) 火口周辺規制及び入山規制の範囲	- 11 -
(2) 噴火警戒レベルに応じた避難対象範囲と避難対象	- 11 -
2 事前対策	- 11 -
2.1 防災体制の構築	- 11 -
(1) 県及び市町村の体制	- 11 -
(2) 協議会構成機関の役割	- 12 -
(3) 噴火警戒レベルと防災対応の概要	- 15 -
(4) 規制看板等設置	- 17 -
2.2 情報伝達体制の構築	- 20 -
(1) 火山に関する情報	- 20 -
(2) 情報の伝達系統図	- 22 -
(3) 異常現象発見の通報	- 22 -
2.3 避難のための事前対策	- 23 -
(1) 避難の基本的な考え方	- 23 -
(2) 火口周辺規制、入山規制及び避難指示等の発令基準	- 23 -
(3) 避難指示等の伝達方法	- 25 -
(4) 避難対象地域及び避難場所、避難経路（方向）	- 26 -
(5) 避難経路	- 30 -
(6) 避難手段の確保	- 30 -
2.4 救助体制の構築	- 31 -
(1) 救助に関する情報共有体制	- 31 -
(2) 医療体制の整備	- 31 -
(3) ヘリポート及び医療機関	- 31 -
2.5 避難促進施設	- 33 -
(1) 避難促進施設の指定	- 33 -
(2) 避難確保計画作成の支援	- 33 -
3 噴火時等の対応	- 33 -
3.1 異常現象の通報または臨時の解説情報が発表された場合の対応	- 33 -
(1) 防災体制	- 33 -
(2) 情報収集・伝達	- 34 -
3.2 異常現象により噴火警戒レベルが2に引き上げられた場合（噴火なし）の対応	- 34 -
(1) 防災体制	- 34 -
(2) 情報収集・伝達	- 35 -
(3) 浅間山頂付近からの登山者・観光客等の避難誘導	- 35 -
(4) 登山道規制	- 35 -
(5) 規制看板の設置	- 35 -
3.3 異常現象により噴火警戒レベルが3に引き上げられた場合の対応	- 36 -
(1) 防災体制	- 36 -
(2) 情報収集・伝達	- 36 -
(3) 登山者・観光客等の避難誘導	- 37 -
(4) 市町村職員の出山道等への配置	- 37 -
(5) 道路・登山道規制及び施設等の防災対応	- 37 -
(6) 規制看板設置	- 37 -
3.4 突発的に噴火が発生した場合の対応	- 37 -
(1) 防災体制	- 37 -
(2) 情報収集・伝達	- 38 -
(3) 浅間山頂付近の登山者・観光客等の避難誘導	- 38 -
(4) 市町村職員の出山口等への配置	- 38 -
(5) 下山者からの情報収集	- 39 -
(6) 緊急的な避難所の開設	- 39 -
(7) 道路・登山道	- 39 -
(8) 規制看板設置	- 39 -
3.5 救助活動	- 39 -
(1) 行方不明者の把握	- 39 -
(2) 救助活動の体制	- 40 -
(3) 医療活動	- 41 -
3.6 災害対策基本法に基づく警戒区域	- 41 -
3.7 報道機関への対応	- 41 -
(1) 長野県・群馬県	- 41 -
(2) 長野県・群馬県・小諸市・佐久市・軽井沢町・御代田町・長野原町・嬬恋村	- 41 -
4 緊急フェーズ後の対応	- 42 -
4.1 規制範囲の縮小又は解除	- 42 -
4.2 風評被害対策	- 42 -
5 平常時からの防災啓発と訓練	- 42 -
5.1 防災啓発	- 42 -
(1) 住民、登山者・観光客等への防災啓発	- 42 -
(2) 平常時からの登山者・観光客等への周知	- 42 -
5.2 防災訓練	- 43 -
<b>巻末資料</b>	
巻末資料 1	火口周辺規制及び入山規制の範囲
巻末資料 2-1	噴火警戒レベルに応じた避難範囲と避難対象
巻末資料 2-2	噴火警戒レベルに応じた避難範囲と避難対象【市町村別】
巻末資料 3	道路の防災対応【噴火警戒レベル3】
巻末資料 4	施設の具体的な防災対応【噴火警戒レベル3】
巻末資料 5	情報連絡系統図
巻末資料 6	浅間山 防災無線・メール 噴火警戒レベル別例文

### <浅間山避難計画（LV1-3 想定） 目次>

出典：浅間山火山防災協議会「浅間山火山避難計画」令和4年3月策定  
<https://www.pref.gunma.jp/uploaded/attachment/20077.pdf>

### (3) 浅間山広域避難計画

協議会では、浅間山の大規模噴火において大きな噴石、降下火砕物（降灰）、火砕流・火砕サージ、溶岩流、泥流等の発生が想定、又は発生した場合に、協議会の構成機関が連携協力し、浅間山周辺の住民等の安全を確保し、迅速かつ円滑な広域避難対応がとれる体制を講ずることを目的に、「浅間山広域避難計画」を令和6年3月にとりまとめた。

出典：群馬県「浅間山火山防災協議会について」(<https://www.pref.gunma.jp/page/8124.html>)

## 浅間山広域避難計画(初版)の概要①

<b>1. 総論</b>	
1-1. 広域避難計画の策定経緯	概要：本計画に係る、浅間山の大規模噴火の事例、本協議会での検討経緯・役割等のほか、共同検討した噴火シナリオ、火山ハザードマップ、噴火警戒レベル等を記載した。
1-2. 広域避難計画の目的・位置づけ	
<b>2. 広域避難計画</b>	
2-1. 基本方針	概要：浅間山の大規模噴火事例である天明・天仁噴火を基に作成された火山ハザードマップに描画された範囲を踏まえ、避難を要する範囲を決定した。避難開始・解除基準は、火山活動の影響が及ぶ範囲の拡大・縮小も視野に設定した。
(1) 対象とする火山現象	
(2) 計画の前提	
(3) 影響が想定される範囲と避難を要する範囲の考え方	
(4) 避難開始・解除基準	
2-2. 浅間山火山防災協議会等の体制と役割	概要：本協議会の体制と役割は、「浅間山避難計画(LV1-3想定)」と調和的に作成し、大規模噴火時等の円滑な情報共有に向け、本協議会が開催・参集する合同会議の設置場所の候補地も整理した。
(1) 浅間山火山防災協議会の構成機関	
(2) 浅間山火山防災協議会の構成機関の体制と役割	
(3) 情報伝達体制	
2-3. 広域避難計画	概要：火山現象ごとに避難のリードタイムの有無を整理した。一般住民、避難行動要支援者、観光客に避難対象者を区分し、これらの避難者数の概数を示すことで、本協議会の関係機関間で避難の規模を共有するとともに本計画の基礎情報とした。
(1) 広域避難における避難の概要	
(2) 火山現象別の避難の考え方	
(3) 避難対象者の区分	
(4) 避難対象地域と避難者数の暫定値	

## 浅間山広域避難計画(初版)の概要②

<b>2. 広域避難計画(つづき)</b>	
2-4. 広域避難に係る各種対策	(※ 今後の防災訓練等を通じて、更なる対策の充実を図る。)
(1) 交通規制	概要：交通規制の実施目的・実施時期ごとの対応・規制範囲の基本的な考え方・段階的な交通規制・機関ごとの役割等を、高速道路や鉄道も含め整理した。
(2) 避難行動要支援者	概要：個人は平時からの個別避難計画の策定の推進、社会福祉施設等は施設ごとの避難の実施と、その際は県及び市町村の支援することを整理した。
(3) 一般住民等の安否確認手法	概要：避難実施市町村が原則実施するとしてうえで、警察・消防・自衛隊等をはじめとした関係機関との連携のもと実施することを整理した。
(4) 避難所の開設・運営	概要：大量の避難者が想定されることから、広域避難者の受入市町村との事前の協議や協定等を行うこと、避難時のそれぞれの役割分担等を整理した。
(5) 降灰対策	概要：降灰時には多様な被害が想定されることから、降灰時の情報の収集・共有・伝達の考え方と、現時点での火山灰の除去と処理の方針を整理した。
(6) 長期避難対策	概要：大規模噴火時の長期活動のシナリオを示したうえで、一時帰宅・帰宅に向けた情報の収集、住宅供給やボランティア活用の考え方を整理した。
<b>3. 今後の検討すべき対策</b>	
本協議会以外の関係機関との連携に向けた調整や、国等の検討中の事項等、これまでの本計画策定に向けた検討で整理しきれていない内容は、今後更なる検討をすべき対策として下記のとおり整理した。	
広域避難者の受入先、広域避難路の決定、避難者の輸送、警戒区域の設定、避難促進施設の検討、長期避難等を踏まえた復興方針の検討、家畜避難、大量の火山灰等の再利用、大規模噴火の火山ハザードマップ影響下にある浅間山火山防災協議会以外の周辺地方公共団体（他県をも含む）との調整、計画の進捗管理	

< 浅間山広域避難計画 (概要説明) >

出典：浅間山火山防災協議会「浅間山広域避難計画」令和6年3月策定  
<https://www.pref.gunma.jp/uploaded/attachment/621352.pdf>  
<https://www.pref.gunma.jp/uploaded/attachment/621353.pdf>

#### (4) 噴火警戒レベルの運用

浅間山では平成19年12月から噴火警戒レベルの運用が開始されており、平成22年12月に改定されている。現在は、噴火警戒レベル2【火口周辺規制】であり、令和5年3月にレベルが引き上げられてから引き下げられていない。噴火警戒レベルの変遷は下記のとおり。

＜噴火警戒レベルの変遷（令和7年10月時点）＞

時期	噴火警戒レベルの状況
令和2年6月25日	噴火警戒レベル2（火口周辺規制）に引き上げ
令和3年2月5日	噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）に引き下げ
令和3年3月23日	噴火警戒レベル2（火口周辺規制）に引き上げ
令和3年8月6日	噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）に引き下げ
令和5年3月23日	噴火警戒レベル2（火口周辺規制）に引き上げ ⇒継続

### 浅間山の噴火警戒レベル

— 火山災害から身を守るために —

●噴火警戒レベルとは、噴火時に危険な範囲や必要な防災対応を、レベル1から5の段階に区分したものです。  
●各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者などのべき防災行動が一目で分かるキーワードを設定しています（レベル5は「避難」、レベル4は「高齢者等避難」、レベル3は「入山規制」、レベル2は「火口周辺規制」、レベル1は「活火山であることに留意」）。  
●対象となる火山が噴火警戒レベルどの段階にあるかは、噴火情報でお伝えします。

【浅間山の特徴】  
深部が中央火成岩、火山灰や砕石が層積した史前山頂成層火山で、爆発的なブルカノ噴火が多いのが特徴です。最近100年間で50以上の大規模な噴火があり、火山活動が活発な、空中小規模な火砕流などが発生しています。最近では2004年に中噴火しています。

■浅間山 噴火警戒レベル1～3に対応した規制範囲

この図は浅間山噴火警戒レベル導入に係る防災対応についての申し合わせ書(平成19年11月11日) 浅間山火山防災対策連絡会議)に基づき作成されています。

■浅間山の噴火警戒レベルは、地元自治体等で調整して作成しました。各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、詳細については是非、消防、地防、小機、後文、編定村、長野県南にお問い合わせください。

この図は、国土院「噴火警戒レベル」(平成22年12月改定)に基づき作成されています。

●この図は浅間山噴火警戒レベル導入に係る防災対応についての申し合わせ書(平成19年11月11日) 浅間山火山防災対策連絡会議)に基づき作成されています。

■浅間山の噴火警戒レベルは、地元自治体等で調整して作成しました。各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、詳細については是非、消防、地防、小機、後文、編定村、長野県南にお問い合わせください。

●この図は浅間山噴火警戒レベル1～3の時の規制範囲を示しています。なお、周辺地域でも噴火が及ぶ場合は、レベル4(高齢者等避難)レベル5(避難)となります。

●噴火警戒レベル1～3に必要な防災対応

噴火警戒レベル(キーワード)	必要な防災対応
レベル3(入山規制)	防災対応の範囲を拡大(4km)を超える範囲では、要警戒、一時規制等
レベル2(火口周辺規制)	火山禁止(山頂火口から4km以内規制) 火口周辺立入禁止(山頂火口から約2km立入禁止)
レベル1(活火山であることに留意)	火口付近立入禁止(火口から500m以内規制)

●凡例

- ◎火口
- 立入禁止区域(火口から4km以内)

道路：レベルにより規制されます。  
レベル3のときは通行できません。  
レベル4のときは通行可能な規制が行われます。

登山道：浅間山では登山し、山頂付近に登山道が認められています。登山道は500m以内は、レベル1でも立入禁止です。  
登山が可能な登山道(レベル別)

- レベル3：登山し、山頂付近に登山道が認められています。
- レベル2：登山し、山頂付近に登山道が認められています。
- レベル1：登山し、山頂付近に登山道が認められています。

### 浅間山の噴火警戒レベル

平成19年12月1日運用開始  
平成22年12月22日改定

種類	名称	対象範囲	噴火警戒レベル	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者への対応	想定される現象等
特別警報	噴火警戒レベル5(避難)	居住地域及びそれより火口側	5(避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	●天仁天明クラスの噴火発生、火砕流等が居住地域に到達。 【天仁天明(1763年)の事例】 8月4日～5日：音響火砕流、隕原岩層など。音響火砕流、隕原岩層、隕原出流が発生。 ●中噴火が頻発し、天仁天明クラスの噴火が切迫している。 【天仁天明(1763年)の事例】 8月1日～3日：軽石噴火の発生間隔が短くなり、継続時間が長くなる。 ●積雪中に中噴火に伴う火砕流や融雪型火山泥流が居住地域に到達、甚大な被害が考えられる。 【積雪事例】 観測事例なし。
			4(高齢者等避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難、住民の避難の準備が必要。	●中噴火が断続的に発生し、天仁天明クラスの噴火の発生が予想される。 【天仁天明(1763年)の事例】 7月26日～31日：中噴火が断続的に発生。 ●噴火継続中の有感地震発生や顕著な地殻変動等により、天仁天明クラスの噴火の発生が予想される。 【積雪事例】 観測事例なし。 ●積雪中に中噴火が発生し、居住地域に影響する融雪型火山泥流の原因となる火砕流が発生した可能性がある。 【天仁天明(1763年)の事例】 7月26日～31日：中噴火が断続的に発生。や火砕流が到達。 ●噴火継続中の有感地震発生や顕著な地殻変動等により、天仁天明クラスの噴火の発生が予想される。 【積雪事例】 観測事例なし。 ●積雪中に中噴火が発生し、居住地域に影響する融雪型火山泥流の原因となる火砕流が発生した可能性がある。 【天仁天明(1763年)の事例】 9月1日：噴石が山頂火口から約2kmまで飛散。 【天仁天明(1763年)の事例】 4月の事例 9月1日：噴石が山頂火口から約2kmまで飛散。火砕流約1.5kmまで、融雪型火山泥流が約2kmまで到達。 1958年11月10日：噴石が山頂火口から約3kmまで飛散、火砕流約3kmまで到達。 ●中噴火が切迫している。 【積雪事例】 2004年8月31日：山体内部の影響を示す傾斜変動と火山性地震急増 1973年2月1日：地震急増 ●山頂火口から小噴火が発生し、2km以内に噴石や火砕流が到達。 【天仁天明(1763年)の事例】 4月26日：噴石が山頂火口から約1kmに飛散、火砕流が約1kmまで到達。 ●小噴火の発生が予想される。 【天仁天明(1763年)の事例】 7月下旬：地震急増、火山性地震増加
警報	噴火警戒レベル3(入山規制)	火口から居住地域近くまで	3(入山規制)	居住地域の近くまで重大な被害を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活、状況に応じて高齢者等の要配慮者の避難の準備等。 登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等。	●山頂火口から小噴火が発生し、2km以内に噴石や火砕流が到達。 【天仁天明(1763年)の事例】 4月26日：噴石が山頂火口から約1kmに飛散、火砕流が約1kmまで到達。 ●小噴火の発生が予想される。 【天仁天明(1763年)の事例】 7月下旬：地震急増、火山性地震増加
			2(火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活、火口周辺への立入規制等。	●山頂火口から小噴火が発生し、2km以内に噴石や火砕流が到達。 【天仁天明(1763年)の事例】 4月26日：噴石が山頂火口から約1kmに飛散、火砕流が約1kmまで到達。 ●小噴火の発生が予想される。 【天仁天明(1763年)の事例】 7月下旬：地震急増、火山性地震増加
予報	噴火警戒レベル1(活火山であることに留意)	火口周辺	1(活火山であることに留意)	火山活動は静穏。火山活動の状況によって火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	状況に応じて火口内への立入規制等。	●火山活動は静穏、状況により山頂火口から500m以内に影響する程度の噴出の可能性あり。

注1) ここでの噴石とは、主として風の影響を受けずに飛散する大きさのものとする。  
注2) 噴石が居住地域に到達する場合は要警戒となる。  
注3) 天仁天明クラスの噴火とは、火砕流、音響火砕流等が居住地域に到達して広範囲に影響するような噴火とする。  
注4) 噴火とは、山頂火口から約1km以内の範囲に噴石が到達する(噴石が約4kmを越えることがある)。  
注5) 小噴火とは、山頂火口から約2km以内の範囲に噴石が到達する噴火とする。  
各レベルにおける具体的な規制範囲等については地域防災計画等で定められています。各自治体にお問い合わせください。  
■最新の噴火警戒レベルは気象庁HPでもご覧いただけます。 <https://www.jma.go.jp/>

#### ＜浅間山の噴火警戒レベル リーフレット＞

出典①：気象庁「火山に関する情報の発表状況」  
(<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/volinfo/volinfo.php?info=VJ&id=306>)

出典②：気象庁「浅間山の噴火警戒レベル」  
([https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level/PDF/level\\_306.pdf](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level/PDF/level_306.pdf))

また、浅間山では、現在の噴火警戒レベルの判定基準は令和6年3月14日から運用されている。

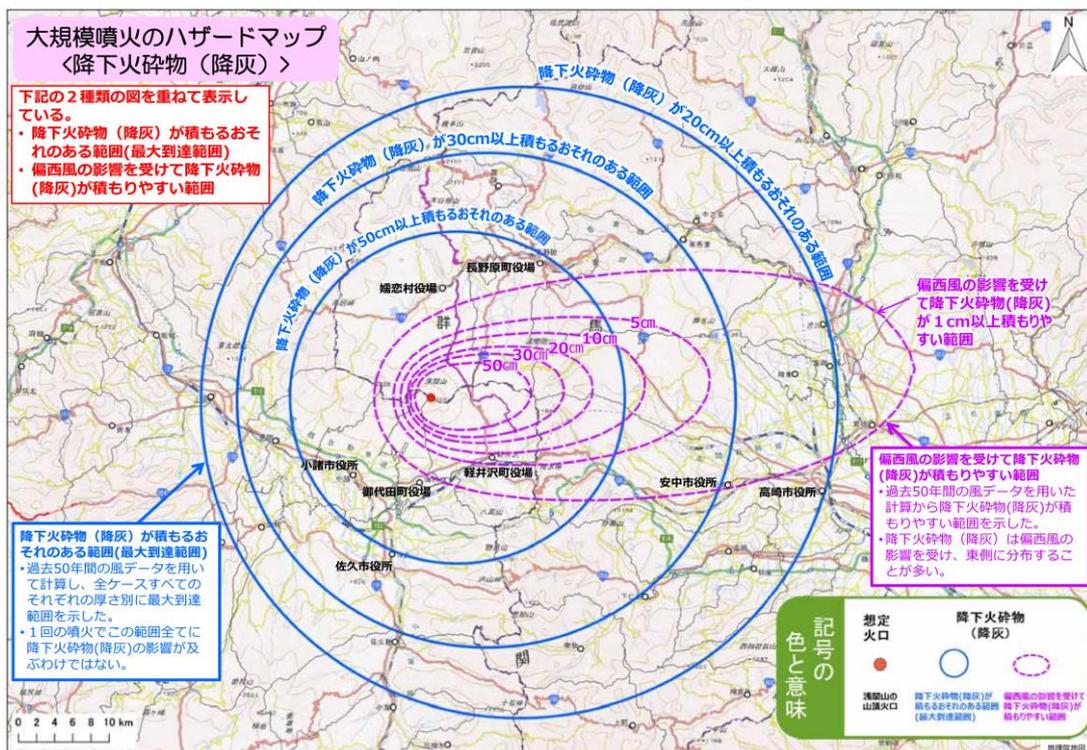
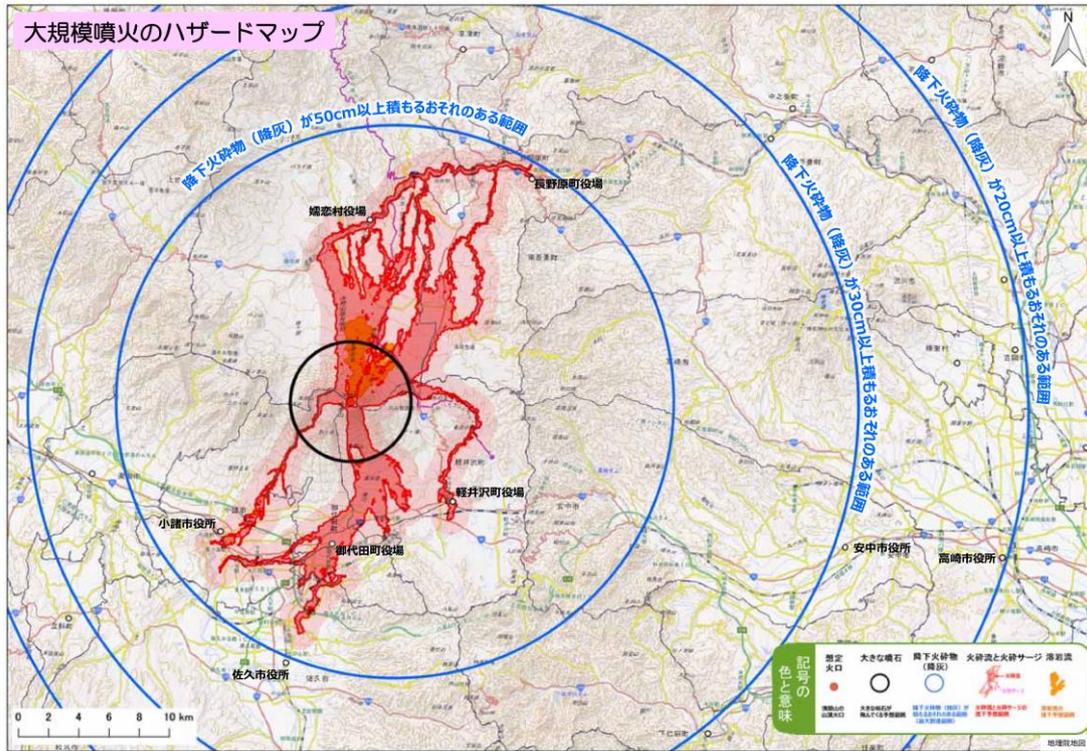
レベル	当該レベルへの引上げの基準	当該レベルからの引下げの基準
5	<b>【大規模な噴火が切迫】</b> ・軽石噴火の頻発 ・天仁天明クラスの噴火開始	左欄の現象がみられなくなるなど、観測データに活動低下が認められた場合に、火山活動を評価した上で総合的に判断。
	<b>【融雪型火山泥流が切迫】</b> ・積雪期に、先端が概ね1 km を超える火砕流の発生 ・融雪型火山泥流が居住地域に到達	融雪型火山泥流の影響が居住地域に及んでいないことが確認された場合には、レベル3に引き下げる。居住地域に及んでいた場合には、影響範囲を把握した上で、警報の切り替えもしくはレベル3への引下げを行う。
4	<b>【大規模な噴火の可能性】</b> ・軽石噴火の発生 ・噴火継続中に山体内を震源とする有感地震多発 ・多量のマグマ上昇を示す顕著な地殻変動	同上
	<b>【融雪型火山泥流の可能性】</b> ・積雪期に、追分地震計南北成分で100 $\mu$ m 以上の爆発地震を伴い、かつ追分空振計で300Pa 以上の空振を伴う噴火が発生	
3	<b>【中噴火が切迫し、特別な防災対応が必要な状況】</b> ・西麓地下での急激な膨脹（地震急増を伴う） 傾斜計で西麓地下の急激な膨脹を示す傾斜変動が観測され、ほぼ同時にBH型地震の回数が急増 ・地震の急増（傾斜変動不明の場合） 石尊観測点のBH型地震回数が12時間で概ね50回以上	左欄の現象が観測されなくなり、その他の観測データにも特段の異常が見られなくなって1日以内（ただし、特別な防災対応の必要がなくなってもレベル3は維持する）
	<b>【中噴火の可能性、特別な防災対応が不要な状況】</b> ・明瞭な火映の発生 レベル2の状態で見られる程度の火映を観測 ・ごく小規模～小噴火が継続的に発生（概ね20回/24時間または概ね30回/30日） <b>【中噴火の発生、特別な防災対応が不要な状況】</b> ・中噴火の発生	左欄の現象が観測されなくなって概ね1ヶ月経過後 ただし、一連の活動で中噴火が発生した場合は概ね2ヶ月経過後
2	<b>【小噴火の可能性】</b> ・噴煙量の増加 二酸化硫黄放出量が増加し、概ね500トン/日以上を継続的に観測、あるいは、日最大噴煙量が前1ヶ月平均で概ね1.5を超える（ただし、噴煙観測日数が10日未満の場合は判定に使用しない） ・火山性地震回数の増加 石尊観測点の日地震回数が前1ヶ月間平均で概ね30回以上で、噴煙量、火口温度等の観測データに高まりが見られる ・マグマ蓄積に伴う山体の膨脹を示す地殻変動 傾斜計やGNSS観測などによって西麓地下を中心としたゆっくりとした膨脹が観測され、噴煙量や地震活動などのデータに高まりが見られる。	左欄の現象が観測されなくなって概ね1ヶ月経過後 ただし、火道閉塞を反映する地震活動の急変によりレベルを上げた後噴火が発生しなかった場合は、火道閉塞が解消されたと推定されてから概ね2週間経過後
	・火道閉塞を反映する地震活動の急変 以下のような地震回数の急変が同時期に発生 >BL型の日地震回数が前1ヶ月平均で概ね25回以上観測される中で、BL型地震回数が急減 >微小地震を含むBH型地震の急増 （「急減」及び「急増」は、地震の前1ヶ月平均日回数に対する前3日間平均日回数の比が、それぞれ、概ね1割まで減少及び概ね1.7倍まで増加すること） ・ごく小規模な噴火が発生 ・次のいずれかの現象のうち複数の現象が発生 >山麓の高感度カメラでのみ観測される微弱な火映または山頂火口内で顕著な温度上昇 >微動回数の増加（日10回程度） >T型地震の増加（日5回程度） >噴煙量や地震回数の増加（上記基準に達しない程度） <b>【小噴火の発生】</b> ・小噴火が発生	
・レベルの引上げ基準に達していないが、今後、レベルを引き上げる可能性があるとして判断した場合、「火山の状況に関する解説情報（臨時）」を発表する。また、現状、レベルを引き上げる可能性は低いが、火山活動に変化がみられるなど、火山活動の状況を伝える必要があると判断した場合、「火山の状況に関する解説情報」を発表する。 ・特記なき限り、各項目でいずれかが該当した場合、そのレベルと判定し、該当した項目が複数のレベルとなる場合は最大値でレベルを判定する。 ・引下げについては、その時点の各観測データに活動の高まりがみえる場合には引下げを見送る。 ・これまで観測されたことのないような観測データの変化があった場合や新たな観測データが得られた場合は、それらを加味した上でレベルを判断することもある。 ・以上の判定基準は、現時点での知見や監視体制を踏まえたものであり、今後随時見直しをしていくこととする。		

＜浅間山の噴火警戒レベルの判定基準＞

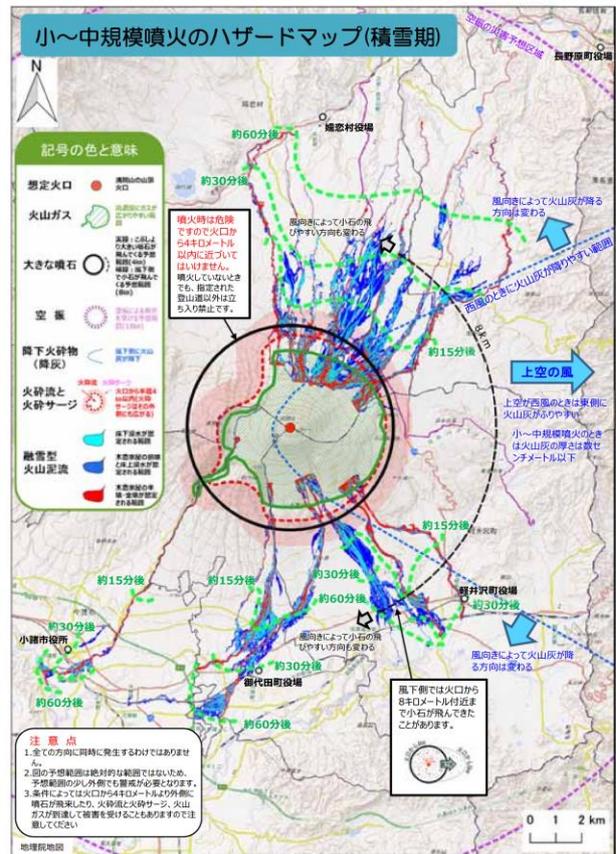
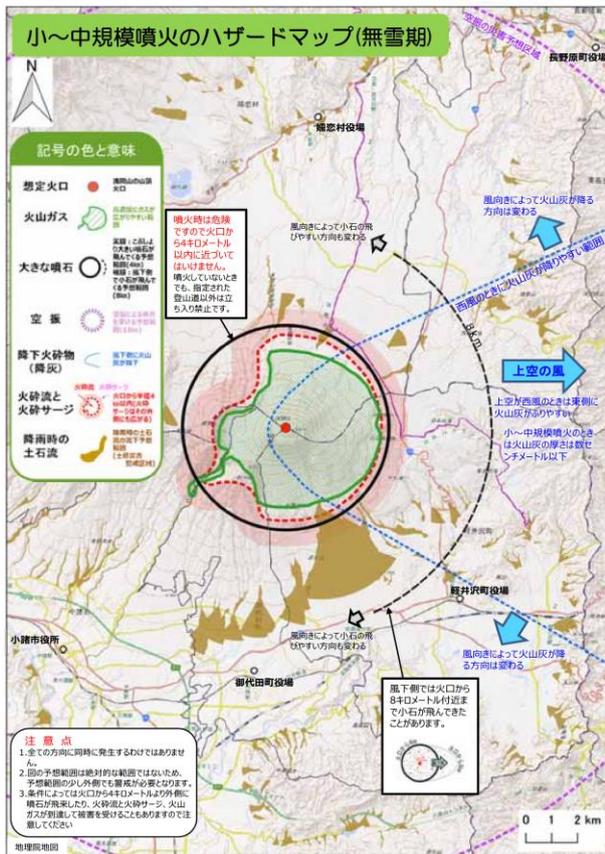
出典：気象庁「浅間山の噴火警戒レベル判定基準」  
 ([https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level\\_kijunn/306\\_level\\_kijunn.pdf](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/306_level_kijunn.pdf))

### (5) 火山ハザードマップ

浅間山火山防災協議会では、大規模噴火を想定したハザードマップを検討するための専門部会を設置し、平成30年3月にこのハザードマップが完成した。また同時に、平成15年に作成した小～中規模ハザードマップをわかりやすくするため、一部改訂を行った。



<大規模噴火のハザードマップ>



<小～中規模噴火のハザードマップ（無雪期・積雪期）>

出典①：群馬県「浅間山における大規模噴火を想定した火山ハザードマップ作成について」  
<https://www.pref.gunma.jp/page/8104.html>

出典②：群馬県「大規模噴火のハザードマップ」  
<https://www.pref.gunma.jp/uploaded/attachment/20024.pdf>  
<https://www.pref.gunma.jp/uploaded/attachment/20025.pdf>  
「小～中規模噴火のハザードマップ」  
<https://www.pref.gunma.jp/uploaded/attachment/20026.pdf>

## (6) 火山防災訓練

浅間山火山防災訓練が令和7年1月31日に群馬県で行われ、浅間山火山防災協議会構成員の各機関が参加した。訓練は大規模噴火を想定し、状況付与型の図上訓練が行われた。

出典：群馬県「浅間山火山防災訓練の実施について」  
<https://www.pref.gunma.jp/uploaded/attachment/648336.pdf>

令和7年度嬭恋村防災訓練が令和7年8月26日に嬭恋村内で行われ、主催の嬭恋村の他、地方気象台等の関係機関が参加し、全体で約100名が参加した。訓練では中規模噴火を想定し、災害対策本部を基点とした情報伝達や、村内での交通規制等が行われた。

出典：一般社団法人嬭恋村観光協会「【取材】スマートシティを活用し、浅間山噴火の被害を想定した防災訓練が実施されました。【群馬県嬭恋村】」  
[https://note.com/tsumagoi\\_kankou/n/n04aabd86eb44](https://note.com/tsumagoi_kankou/n/n04aabd86eb44)

## (7) 群馬県による啓発の取組

### ① 小学生を対象とした防災教育

国土交通省利根川水系砂防事務所浅間山出張所は、土砂災害と浅間山噴火に伴う火山災害のしくみや砂防施設の役割などを紹介し、防災対策についての理解を目的に「【出前講座】砂防学習会」を実施している。

令和7年1月14日には佐久市立高瀬小学校の5年生28名が参加し、土砂災害と砂防施設に関する動画の視聴・土砂災害対策模型による砂防効果の疑似体験・ココアパウダーを使用した火山泥流実験・自然災害体験車でのご想像体験を行った。



<佐久市立高瀬小学校での砂防学習会の様子>

出典：国土交通省利根川水系砂防事務所浅間山出張所「浅間山砂防だより」  
([https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr\\_content/content/000908006.pdf](https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000908006.pdf))

### ② 浅間山火山防災講演会

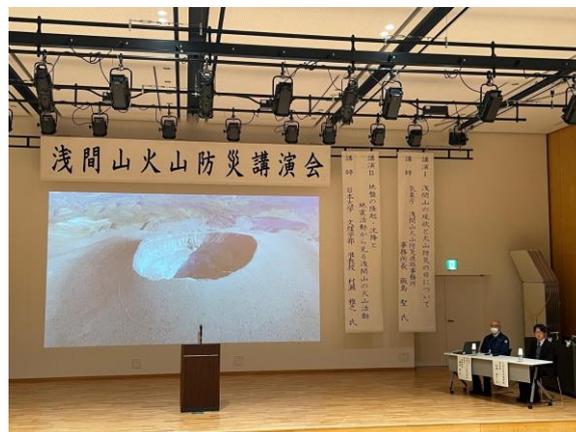
令和6年3月23日小諸市市民交流センターで、令和5年度の浅間山火山防災講演会を以下のとおり開催した。

(1) 演題：「浅間山の現状と火山防災の日について」

講師：気象庁浅間山火山防災連絡事務所 事務所長 飯島 聖 氏

(2) 演題：「地盤の隆起・沈降と地震活動から見る浅間山の火山活動」

講師：日本大学 文理学部 准教授 村瀬 雅之氏



<浅間山火山防災講演会の様子>

出典：小諸市「火山防災講演会」  
(<https://www.city.komoro.lg.jp/soshikikarasagasu/somubu/kikikanrika/1/5/1/14542.html>)

### ③ 「信州 火山防災の日」記念イベント

令和6年9月14日小諸市市民交流センターで、長野県、小諸市の共催で行われた。イベントでは、子どもたちの体験コーナーの他、浅間山の噴火史や浅間山の噴火体験談の講演が行われた。

出典：長野県「県内火山防災イベント情報（令和6年度）」  
(<https://www.pref.nagano.lg.jp/bosai/kazan/eventr6.html>)